

REMEMBER117

リメンバー117

「あの日」を知らない学生たちが、
「あの日」と「これから」を考えるプロジェクト。

阪神・淡路大震災

25 年

「防災備蓄を持って、
水族館で2泊3日過ごしてみた。」 [岡田 敏和]

自称 防災マニア大学生。
12月中旬の避難所体験企画。
風呂なし、暖房なし。寝る時は寝袋で。
飲料・食料・電気は持ち込み。
水だけで調理できるアルファ米でチキンライス。
ソーラーパネル。
手回し充電器を使ってスマホ充電。
初めて使ってみた携帯型浄水ストローの効果とは。

記事全文は
こちら



兵庫県広域防災センター 「起震車」体験記

[上利 侑也]

(前略) 神戸電鉄緑が丘駅から神姫バスに乗車して、15分ほど到着した「兵庫県広域防災センター」。甲子園 26 箇所の広大な敷地内、災害時には兵庫県の連絡拠点となる。敷地内の野球場や陸上競技場はヘリポートや支援物資の保管拠点に。全国的にもこれだけの規模で災害拠点とする所はほぼ無いそう。阪神・淡路大震災を経験している県だからこそと感じ、誇りに思う。
起震車を体験する前に、まず防災講話を聴く。東北地震による津波の映像も観ました。報道で目にした当時から8年経って、映像から感じるものは何か変わっていました。「なんで地震の揺れは……」 (続く)



記事全文は下記 QR



防災ってめんどくさい？

[芦家 幸菜]



私は、身近な人が死んでしまうことの恐怖を日常の中でよく感じる。例えば、母が買い物に出かけた時、父が趣味の釣りに出かけた時、弟が部活動の合宿に出かけた時、このまま会えなかったらどうしようという考えが自然に頭に思い浮かんでしまう。交通事故や事件などで…… (続く)

記事全文は下記 QR



ボランティアをすることは 本当に就活に有利なのか

[中尾 奏音]



以前から、ボランティアには参加したいという思いがあった。テレビに映る被災地を見て純粋に困っている人の力になりたいかった。しかし、自分も災害に巻き込まれてしまうかもしれないと思うと、一歩を踏み出すことができずにいた。そんな私も今年の春、大学生になり、将来や就職について考える機会も増えてきた。そして、ボランティアはより身近なものに感じるようになった。大学では授業で…… (続く)

記事全文は下記 QR



[石室 航平]



[玉井 雄貴]



[村上 莉乃]



[佐治 千恵美]



[村上 莉乃]



[徳本 賢太]



[西田 佑麻]



[上利 侑也]



[佐久間 功規]

「ほんとだ!!」の女子高生 「ほんとに?」の女子大学生

[中村 梨花]



(前略) 2016年に起こった熊本地震。(中略) ライオンが低から飛び出したという画像付きのツイート。普段ならあるわけない。そう思いスクロールするようなくだらないツイートだ。しかし、これが私が見たのは、本震直後に避難し、落ち着いてきた午前3時頃だった。この…… (続く)

記事全文は下記 QR



防災士！これっていいの？

[稲澤 通樹]



(前略) 私は4歳の頃に兄に「ドスベ!『草野仁の緊急検証 巨大地震は必ず来る!』という番組に心を打たれた「防災」というものに非常に興味を持ちました。そして様々な書籍やテレビ番組の特集を数多く見て、独学ながら勉強をしました。しかし、書籍や映像などで得られる知識には限界がありました。また私の周りには同じように防災意欲があり、刺激し…… (続く)

記事全文は下記 QR



リメンバー117 阪神・淡路大震災25年

プロジェクト始動 2019年8月21日
当誌発行 2020年1月27日

リメンバー117は兵庫県庁の支援による、阪神・淡路大震災25年WEBメディアプロジェクトです。
参加している学生は、阪神・淡路大震災を体験したことのない若者ばかりです。
生まれる前の出来事。自分たちなりに関心と情熱と心をこめて考えて、記事を書いていきます。

チーム・リメンバー117

取材チーム(50音順)

上利 侑也 佐久間 功規 原 郁海
芦家 幸菜 佐治 千恵美 前田 華織
石室 航平 西田 佑麻 松原 誠
前田 利夏 玉井 雄貴 三宅 菜月
稲澤 通樹 中尾 奏音 村上 莉乃
岡田 敏和 中村 梨花 山口 千帆
岡田 ほか 前延 夕佳 山田 莉那
北出 湊大 橋本 賢太
園友 沙也佳 林 湊大

サポーター

湯川 カナ (兵庫県広報)
有田 佳彦 (兵庫県産業デザインディレクター)
西沢 伸樹 (兵庫県防災支援課)
日北 雅樹
河原 聡一
村上 智美子
小林 知恵子
稲澤 通樹

取材協力

(50音順 敬称略)
関本優河 / 神戸新聞社 / 神大モダン・ドンキ / 淡路海
浜水族館 / 兵庫県広域防災センター / ひょうごボランティア
プラザ / ままさんちゃん

発行・問い合わせ

ひょうご安全の未来創造局企画事業局
(兵庫県防災支援課内)
〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1
TEL 078-362-4902
E-mail kakushonipref.hyougo.jp

https://remember117.jp



記事の制作陣様々を発信中



※サポーターによるコラム、随時更新。リメンバー117をぎゅっと
印刷しています。

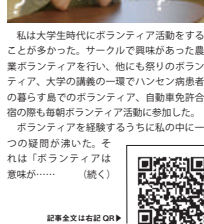
あなたのことを忘れていませんよ

【林 凌大】
 (前略) ひょうごボランティアプラザ所長 高橋守雄さんにインタビューをする前、僕はボランティアに行っても緊張して本当に支援できているのか不安だったし、迷惑になってないのかなともとても悩みなのかと、うだうだ考えていました。しかし、インタビューをした後はそういう考えをするとか自体あまり意識がなかったのではいかと考え方が変わりました。



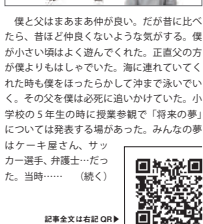
ボランティアって意味あるの？

【佐治 千恵美】
 (前略) ボランティアって意味あるの？



親父、いやお父さん

【石堂 航平】
 (前略) リメンバー117



防災の精神・災害文化。
 この大きな節目が、若い人にとってこれからの災害に備えるきっかけになるように。

湯川 広報官が
 早金 防災監に
 聞く。

「当時現場にいなかった人」も含めて
 それぞれに果たせる役割。

まきえちゃんと私

【原 都海】
 おばあちゃんに私が書いた記事を見せると、「今まで震災の話はしなかったね」といって私にゆっくりと語り始める。

インタビューというよりおばあちゃんと孫の対談という感じで、全く緊張感は漂っていません。おばあちゃんに私が書いた記事を見せると、「今まで震災の話はしなかったね」といって私にゆっくりと語り始める。



インタビューというよりおばあちゃんと孫の対談という感じで、全く緊張感は漂っていません。おばあちゃんに私が書いた記事を見せると、「今まで震災の話はしなかったね」といって私にゆっくりと語り始める。

「今まで震災の話はしなかったね」といって私にゆっくりと語り始める。

祖母は私にもと多くのことを語ってくれたので、話の要点を箇条書きでまとめる。

水の不足

顔を洗うのが精一杯だった。トイレも流せなかった。トイレを流すために、妙法寺川からバケツで水を汲み上げるバケツリが行われていた。

冬だったため毎日はお風呂に入らなかった。そもそも入れもなかったのだが、自衛隊が作った風呂に行き、高倉台でのお風呂ボランティアにお邪魔し、親戚の家へお風呂に入りたため電車に乗った。

昔聞いていた職場の社長宅が近所であり、心配の様子を見に行くに赤い炎で包まれている。水がでないから消火できない。石を投げるようになった。あちこちに火が燃え移った。何もできず、燃えるがままに逃げ落ちた。何日も火がついてますで、空は煙っており、黄塵の雲が浮く。

今はどおいじちゃんの話

おじいちゃんは、5時30分に出張のため早めに出動していた。地下鉄で

キャッシュレス × 災害 = ?

【玉井 雄貴】



母と商店街と串刺しホルモン

【岡田 ほのか】

私はインスタ映えを狙ってキラキラした世界を演出している(ンゲーキ専門店より人情味や生活感のある商店街の方がよっぽど落ち着く。私のように商店街に愛着をもつ人は多いはず。いつものお店でいつもの店主と何気ない会話を交わす。その中で信頼関係が築かれていき、安心というなにもに変えたいものが生まれるのではないだろうか。私が商店街に魅力を感じ始めたのは母の影響が大きい…… (続く)

10歳の私へ

【村上 莉乃】



手選れになる前に避難してください

【前田 華織】

何となくすることがなかったからボランティアをした。

【林 凌大】

揺れが分らない。

【上利 健也】

防災系男子の憂鬱

【岡田 敬和】

「手選れになる前に避難してください」

【前田 華織】



揺れが分らない。

【上利 健也】

防災系男子の憂鬱

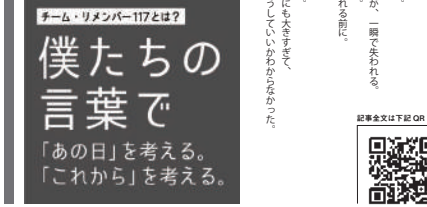
【岡田 敬和】

災害時でも美しく

【原 都海】

リメンバー117は、学生が作っています。

「この後の地震や、津波、大雨、火災、大規模な災害も、必ず来る。だから、今から準備をしよう。」



「あの日」を考える。「これから」を考える。



記事全文は左記 QR



記事全文は左記 QR



記事全文は左記 QR



記事全文は左記 QR



記事全文は左記 QR



記事全文は左記 QR



記事全文は左記 QR



記事全文は左記 QR



記事全文は左記 QR



記事全文は左記 QR



記事全文は左記 QR